

研修名 食育 アレルギー対応

平成30年12月21日(金) 13:30~16:00

講義・演習 「アレルギー疾患の理解と

保育所におけるアレルギー対応について」

講師 園田学園女子大学 末廣 豊 氏

1 講演要旨

1) 病気の移り変わり

生活様式の変化で、世界的に見れば感染は減ったがアレルギーは増加している。

日本ではアトピー性皮膚炎は減りかけているが、気管支ぜんそくは横ばい、食物アレルギーは増加している。

アレルギーになりやすい子どもが成長するにつれていろいろなアレルギー疾患に順番にかかっていく様子を「アレルギーマーチ」という。アレルギーマーチを進行させない為には予防が必要である。

① アトピー性皮膚炎の予防

経皮膚感作がアレルギーマーチの最初である。治りにくい原因は、ステロイドを塗る事の不安や日々のスキンケアや塗薬にストレスを感じたりする事が主な原因である。

ステロイド、保湿剤の塗り方の指導を受けて乳児期の湿疹をゼロにすることで予防できる。

② 気管支ぜんそくの予防

6歳までに治るタイプと成人まで続くタイプがある。アレルゲンが全く関与していないタイプは治りやすいが関与しているタイプはアレルゲン対策をし、吸入ステロイド、LTRA内服などを続けることが大切である。

③ 食物アレルギーの予防

特徴としては増えてきている、皮膚からの感作が起こる、治せる、食べ過ぎると症状が出る、食べないと治らない、全身に症状が出ることもある。乳児期が一番多く全年齢における原因食物は鶏卵、牛乳、小麦が多い。6歳過ぎから始まるアレルギーは治りにくいとされている。

即時型の症状（食物摂取後60分以内）で最も多い症状は皮膚症状の湿疹、次いで呼吸器症状のアナフィラキシーである。また成長するにつれて病型が変化してくる。学童期～成人期にはエビ、カニなどで食物依存性運動誘発アナフィラキシーがある。幼児期～成人期には果物、野菜などの口腔アレルギーがある。

2) アナフィラキシーについて

保育所でアナフィラキシーが発症しアナフィラキシーショックを疑う場合は、エピペンが処方されている子どもは使用すべきである。

<手順>

おんぶをしない、寝かせる、押さえる。

エピペンを取り出す、利き手でグー握り、安全キャップを確実に抜く

打つ場所を特定(膝と股を3等分した真ん中、大腿の外側、ポケットの内容確認)

大腿外側に垂直に5秒間押し付ける(振り下ろさない)

ゆっくりと抜き、揉んでおく。

ストレッチャーにのせる、救急車で搬送、救急診療所では真っ先に診てもらうこと。

2 感想

アレルギーの始まりは経皮膚感作から始まることを知り乳児期にしっかり保湿し湿疹をゼロの状態にすることで予防できることがわかりました。自園でも食物アレルギーがありますが保護者が積極的に医師と相談し少しずつ食べられる食材が増えたらと思います。

エピペンの使い方では、発症時に慌てないためにも自園で定期的に練習していけたらと思いました。この研修を受けましてさらに自分自身のアレルギー知識の向上に努めていきたいです。

(記録 レイモンド向日保育園 三谷恵美子)

